

与那国島にミサイル配備

基地誘致した人も反発

日本最西端に位置し、台湾に最も近い与那国島（沖縄県与那国町）で、ミサイル部隊の配備をはじめとする軍事要塞化が狙われていることに對し、自衛隊基地を誘致した人たちからも強い反発と不安の声が出ています。

沖繩

与那国島は、サツマイモ

空誘導弾（ミサイル）部隊を配置するとした方針を確表しました。

同上

のよつた形をした周囲約27キロ(東西12キロ、南北4キロ)の小さな島です。島の東側に小さな駅があります。

新たな部隊配備に伴う基地拡張のためとして、2003年度予算に陸上自衛隊与那国駐屯地東側の土地取

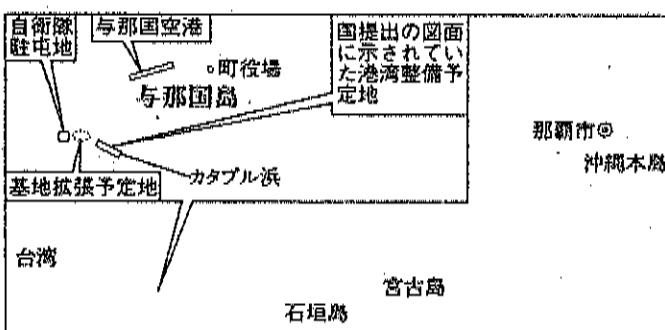
分断の火種

岸田自公政権は昨年末、

記する安保3文書を閣議決定した直後、与那国に地対

与那国町では24日夕刻、
地対空誘導弾パトリオット
(PAC3) の初めての配

国境離島の軍事要塞化計画



備が進められています。政府は、「軍事偵察衛星」と称する北朝鮮の長距離弾道ミサイル発射への備えとしています。

多数となつた「決着」の後も住民間で感情的ななじみが残つたとされます。「数年かかつて少しずつ融和が進んできたのに、ミサイル配備は新たな分断の火種になるのではないか」と懸念する声もあります。

はないのか」と不安観する声が広がっています。

民意聞かず
与那国での漁港拡張と漁
業整備について「読売」(22
年12月13日付)は「政府は、
自衛隊のF-35戦闘機が離着
陸でよりより延伸・改修す
る方向で調整に入った」
「自衛隊護衛艦が接岸でき
る港湾を整備する計画も進
める」と報じています。
糸数健一町長はミサイル
部隊の配備について「必要
だ」(地元紙「八重山毎日
新聞」3月14日付)と述べ
ています。配備を認めるか
どうかの判断は「町長権限
の範囲内」と強弁。町民の
声を聞くとは当たらないと
しています。

16年に開設した同駐屯地
の沿岸監視部隊の誘致をめ
ぐつては、賛成・反対で島
を二分する争いが持ち込みま
れました。住民投票で賛成
るために糸数町長は、島南
部の比川地域での港湾整備
や県営の与那国空港滑走路
延伸を国などに求めていま
す。町によると糸数町長

